

# 道路、ダムなどの建設に伴う植物の実態調査と保護

石 沢 進

スキー場、ゴルフ場など大規模な改変には、事前に環境影響調査を行ない、必要な対策が取られるようになってきているのは、甚だ喜ばしいことである。高速道路や幹線道路の建設に先立って遺跡の調査が済むまでは工事を着工しないという。遺跡は人類が作り出した遺産であり、その実態を調査しておくことは大切なことである。遺跡と同じように植物の生育している環境についても、着工前に充分調査しておくことが重要である。植物の生育している環境は長い年月の間に作り出した自然の遺産であり、遺跡と同じ価値を持っているはずである。しかし、遺跡ほど十分な事前調査がなされないまま、工事が進められている場合が多く、残念である。

人類にとって大切な第1生産者である植物の生活の場がどうなっているのかを確かめ、保護の必要なものに充分配慮した上で、改変が止む無しの判断を下すべきであろう。人類だけを優先させる自然の改変は再考を要する時代になってきているはずである。便利さや快適さを優先させないで、自然に遠慮して共存の道を探る考えを基盤にした政策への転換が必要である。自然に人為を加える場合、それは大規模であっても、小規模であっても充分配慮した取り組みが要求されることになる。

特に気になるのは、小さな沢のダム建設、特別許可を必要としない林道開設、道路の拡幅など至る所で行なわれている。小規模であるから特別な委員会を組織して検討することもなく、関連部局または住民との調整や相談も充分なされないまま、いつのまにか改変されてしまうことがある。植物の生えている環境は、短時間で形成されたわけではなく、小さ

な空間でも重要なところが極めて多く存在する。その大切さを認識することなしに大型機械で瞬時に失ってしまうようなことは避けたい。様々な工事を立案・実行される関係者には、自然を改変する場合、多大の犠牲が伴うことをあらためて認識して頂き、最小限に止める配慮を切望する。

例えば、たまたま昨年の暮に道路の拡幅する計画を現地で知り、その道路沿いには県内でも数少ない貴重な自然が残っていることから、県の自然保護係にお願いし、計画の担当者と連絡を取り計画路線の変更を要望した。計画路線はすでに決定し、地主など関係者との調整済であり、着工寸前の要望で変更し極めて困難を伴うとのことでした。しかし、貴重な部分を絶滅から避けるように再考したいとの計画担当者の暖かい返答を頂いた。最終的に検討した結果、貴重な植物の生育箇所は、現在と同じ状態で保つ方向で工事を進めるとの回答を頂くことができた。地球の寒冷期の姿を残存する自然の植生であることから、是非将来に残しておきたいとの意向に深いご理解頂き、保存の方向を決定した関係者に厚くお礼申上げたい。この場合も事前に路線沿いの自然環境への影響を配慮する機会を設けて検討しておけば、変更の手続きが避けられたのではないかと思う。普段見慣れたどこにも存在すると思われる身近な自然にも、貴重な意義を持つ場のあることを、心にとめておき、事前に対応して頂きたいと思う。

いずれにしても自然環境の改変にあたっては規模の大小に拘らず、人間主体でなくてそこに生育する植物に配慮して最小限にとどめ、共存の道を探って頂きたいと念願する。